



「クリーニングドクターの豆知識」その18

誰も教えてくれない柔軟剤のこと

【辛口の最終回】⑥

柔軟剤については今回で計6回。2年間を費やしました。

今までの内容は、大まかには以下のようなことです。

- ①柔軟剤の油脂は酸化する。それは体に悪い
- ②柔軟剤を使わず衣類を柔らかくする方法
- ③柔軟剤をさらに効果的に使う方法
- ④芳香性柔軟剤の問題



後半はいささか突き放したような語り口でした。それは皆さんに自分で調べて自分で結論を出してほしかったからです。この豆知識を継続して読まれている方は、「エマルで洗うと、家庭でドライクリーニングができる」などとは思わないはずですよ（そう信じていますよ・笑）。でも未だにエマル＝ドライクリーニングと思っている方は少なくありません。これは視聴者を騙すようなCMを作る方が悪いのはもちろんですが、騙される側、つまり判断の基準を100%CMやメディアに頼っている方にも同様に責任はあるはずですよ。自分で調べるのは30分もかかりません。でも調べて身に着けた知識は、一生役に立つのです。一生ですよ。

当店ではなにも「柔軟剤を使うべきではない」と言っているわけではありません。

メリットとデメリットをきちんと理解したうえで、それでも使う人は使えばいい。使わないを選んだ人には専門家として少し助言ができます。という事です。どんな製品を選ぶかはその製品の特徴を把握した上で自分の考え方、体験と合わせ判断するしかないと思います。製品本来の機能性をとるか、安全性をとるか、値段をとるか、使い易さをとるか。全てが100%満たされることはないと考えべきです。優先順位をつけるのは自分自身ですよ。

ちなみに当店では柔軟剤を3種類から2種類に減らしました。残った2種類は、ほぼ酸化しない製品ですよ。シャツ・ブラウス・綿パンツ等、直接肌に触れる衣類にはほとんど使っていません。当店では安全性が優先ですよ。柔軟剤なんかなくても、正しい知識があれば衣類はふっくらと仕上がるのです。

もう一つ覚えていてください。

我が国で最初に発売された柔軟剤は1962年の「花王ソフター」ですよ。発売からまだ50年。柔軟剤の成分が蓄積されること、人体にどんな影響があるのか。現時点ではまだ未知数なのですよ。我々は人体実験の被験者なのかもしれませんね・・・

「花王ソフター」が登場した60年代初期というのは、粉石鹼から合成洗剤に移行した頃ですよ。ということは【粉石鹼で衣類を洗っていた時代は柔軟剤は不要だった】わけですよ。以前にも述べましたが、私個人の日常の衣類（タオル・肌着・シャツ等）は25年以上粉石鹼で洗っています。柔軟剤の必要性を感じたことはありません。

さて今回で柔軟剤は終了ですよ。今までおつきあいありがとうございます。

ここまで読んでもし石鹼に興味を持った方。次回を楽しみにしてください。



古川クリーニング

宮崎市瀬頭 2-2-14
お問い合わせは

0985
22-7808